

ウオダス 漁海況速報 No. 2000

発行日 平成30年10月1日

http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=2184

発行 (地独) 青森県産業技術センター水産総合研究所

TEL:017-755-2155 FAX:017-755-2156

住所 〒039-3381 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10



10月のウオダス発行予定

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	5	6
7	8	9	10	⑪	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	⑫	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

○ 漁海況 □ 漁況

ウオダスはおかげさまで2000号

平成30年漁期の本県のハタハタ漁獲対象

資源量の予測結果 (漁獲対象資源量は前年をやや上回り、主体は1、2歳魚)

平成30年度第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報

北海道区水産研究所は9月27日、関係機関の情報を取りまとめ、表記の予報を発表しました。

今後の見通し(2018年10月~12月)

1.道東太平洋海域(いか釣り、底びき網)

- (1) 来遊量：前年並。
- (2) 漁期・漁場：漁場形成は散発的、明瞭な主漁期は無い。
- (3) 魚体：前年より大きい。

2.根室海峡~オホーツク海(いか釣り、定置網、底びき網)

- (1) 来遊量：前年並。
- (2) 漁期・漁場：明瞭な主漁期は無い。
- (3) 魚体：前年より大きい。

3.津軽海峡~道南太平洋海域(いか釣り、定置網)

- (1) 来遊量：前年並。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体：前年より大きい。

4.常磐~三陸海域(いか釣り、底びき網、定置網、まき網)

- (1) 来遊量：前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体：前年より大きい。

ウオダスはおかげさまで2000号を迎えました

ウオダス漁海況速報は今号で通刊2000号を迎えました。昭和59年春の異常低水温で被害にあった漁業関係者から、より短い周期で海況情報を提供して欲しいとの要望があり、翌昭和60年4月16日に、5日毎に発行するウオダス第1号を発行しました。現在は、漁海況全体を掲載する全体版(号版)を10日毎に、漁況のみを掲載する簡略版(枝番)をその間に発行しています。ウオダス(UODAS)とはUsable to Offshore-fisheries Data Acquisition Systemの略で、気象庁の地域気象観測システム、アメダス(AMEDAS)にならって命名しました。

創刊以来33年余りにわたって発行し、延べ発行回数は2,360回で、漁況・海況情報に加えて調査、研究や海洋観測の結果、漁獲状況、大型クラゲ等有害生物の出現情報、珍しい海洋生物の発見情報、漁海況の特異現象など多岐にわたる情報を提供してきました。近年、漁場環境、水産資源が大きく変動し、漁業就業者が減少していることから、漁海況情報、漁場形成、漁況予測の重要性が一層高まっています。ウオダスは、今後も生産現場ですぐに役立つ情報を提供していきます。

これまで漁海況情報の収集に協力いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。今後も何卒御協力をお願いいたします。 水産総合研究所 所長 野呂恭成

小泊 (とりまとめ中) (9月26~30日)

クロマグロ	延縄	6隻	1,666.2kg
ウスメバル	釣り	8隻	271.4kg

下前 (9月21~25日)

クロマグロ	延縄	6隻	1,666.2kg
ウスメバル	釣り	8隻	271.4kg

(9月26~30日)

クロマグロ	延縄	3隻	410.2kg
ウスメバル	釣り	4隻	206.3kg

鯨ヶ沢 (9月21~25日)

スルメイカ	底曳網	1隻	125.0kg
ヤリイカ	底曳網	3隻	88.0kg
マダイ	釣り	19隻	39.3kg
(372.5kg)	底曳網	3隻	326.8kg
	刺網	5隻	6.4kg
クロマグロ	釣り	19隻	155.4kg
ウスメバル	釣り	11隻	0.5kg
マダラ	底曳網	1隻	10.0kg
サケ	定置網	3隻	86.7kg

(9月26~30日)

スルメイカ	底曳網	1隻	15.0kg
ヤリイカ	底曳網	4隻	176.0kg
マダイ	釣り	11隻	7.1kg
(806.7kg)	底曳網	4隻	795.0kg
	刺網	6隻	4.6kg
クロマグロ	釣り	14隻	294.7kg
サケ	定置網	7隻	259.7kg

大戸瀬 (新深浦) (9月26~30日)

マダイ	釣り	1隻	0.6kg
(53.2kg)	定置網	21隻	51.9kg
	刺網	1隻	0.7kg
クロマグロ	釣り	18隻	1,294.1kg
ブリ	釣り	1隻	3.4kg
(61.1kg)	定置網	15隻	57.7kg
マダラ	刺網	1隻	0.4kg
サケ	定置網	35隻	207.5kg

三沢 (とりまとめ中) (9月26~30日)

マダイ	定置網	2隻	202.0kg
サケ	定置網	4隻	1,725.0kg

深浦 (9月21~25日)

スルメイカ	底曳網	6隻	1,634.5kg
ヤリイカ	底曳網	5隻	148.5kg
マダイ	底曳網	5隻	186.8kg
クロマグロ	釣り	20隻	2,165.0kg
ブリ	釣り	1隻	2.0kg
ウスメバル	釣り	2隻	62.5kg
マダラ	底曳網	4隻	107.2kg

平館 (外ヶ浜) (9月11~15日)

マダイ	底建網	4隻	202.3kg
ブリ	底建網	4隻	413.4kg
ウスメバル	底建網	2隻	2.7kg
サバ類	底建網	3隻	40.0kg

(9月16~20日)

スルメイカ	定置網	1隻	2.8kg
マダイ	底建網	4隻	100.3kg
ブリ	底建網	3隻	127.6kg
ウスメバル	底建網	1隻	0.4kg
サバ類	底建網	3隻	31.8kg

三厩 (9月26~30日)

スルメイカ	釣り	1隻	5.0kg
クロマグロ	釣り	33隻	1,400.0kg
ウスメバル	釣り	1隻	9.0kg

佐井 (とりまとめ中) (9月26~30日)

マダイ	定置網	2隻	202.0kg
サケ	定置網	4隻	1,725.0kg

大畑 (9月26~30日)

スルメイカ	釣り	56隻	1,365.0kg
マダイ	釣り	4隻	18.4kg
(54.0kg)	定置網	10隻	35.6kg
クロマグロ	延縄	4隻	463.5kg
ブリ	定置網	11隻	34.4kg
サバ類	定置網	11隻	857.0kg
サケ	定置網	12隻	1,518.7kg

尻労 (9月26~30日)

マダイ	定置網	2隻	202.0kg
サケ	定置網	4隻	1,725.0kg

沿岸各地の水温 (9月26日～30日)

日本海 21℃～22℃台 津軽海峡 20℃～21℃台
 陸奥湾 21℃～22℃台 太平洋 19℃～20℃台

今回は平均前回差が-0.3度となりました。
 前年と比べると、日本海が+0.8度、津軽海峡が+1.1度、陸奥湾が+0.6度、太平洋が+1.5度で、平均前年差は+1.0度となっています。
 平年と比べると全海域とも「平年並み」となっています。

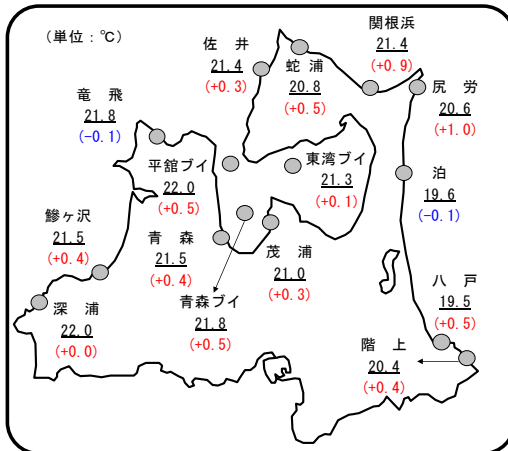


図 定地水温 (9月26日～30日)
 平均值 (平年差) ブイは 1m

表 沿岸各地の水温 (9月26～30日) (単位: °C)

海域	地点	水温	前回差	前年差	平年差
日本海	深浦	22.0	+0.0	+1.8	+0.0
	鰐ヶ沢	21.5	-0.8	-0.2	+0.4
	平均	21.8	-0.4	+0.8	+0.2
津軽海峡	竜飛	21.8	-0.3	+1.4	-0.1
	佐井	21.4	+0.3	+0.2	+0.3
	蛇浦	20.8	+0.4	+2.0	+0.5
陸奥湾	関根浜	21.4	+0.1	+0.9	+0.9
	平均	21.3	+0.1	+1.1	+0.4
	青森	21.5	-0.5	+0.5	+0.4
太平洋	茂浦	21.0	-0.8	+0.1	+0.3
	平館ブイ	22.0	-0.4	+0.7	+0.5
	青森ブイ	21.8	-0.4	+0.9	+0.5
陸奥湾	東湾ブイ	21.3	-0.5	+0.6	+0.1
	平均	21.5	-0.5	+0.6	+0.4
	尻労	20.6	-0.5	+1.8	+1.0
太平洋	油	19.6	-0.6	+0.6	-0.1
	八戸	19.5	-0.6	+2.2	+0.5
	階上	20.4	-0.5	+1.3	+0.4
全体平均	21.1	-0.3	+1.0	+0.4	

太平洋の海況

(9月26日～27日、表面水温分布)

概況: 沿岸水温は20～21℃台

○太平洋沿岸域の表面水温

前回と比べてわずかに降温しています。これは前年同期に比べて1度ほど高い水温です。

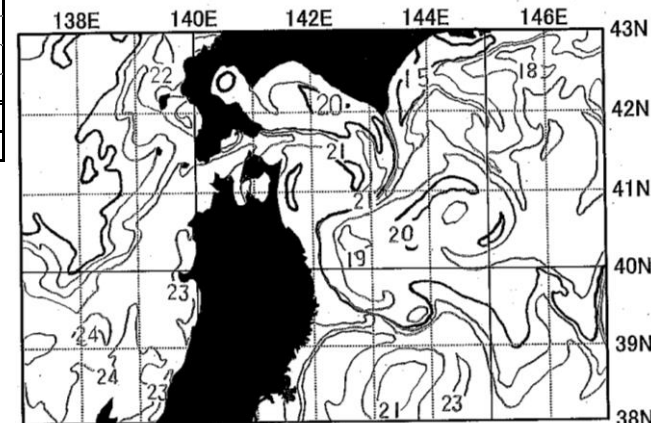
日本海の場合

(9月26日～27日、表面水温分布)

概況: 沿岸水温は24℃台

○日本海沿岸域の表面水温

前回と比べて1度ほど降温しています。これは前年同期と比べて1～2度高い水温です。



資料: (一社) 漁業情報サービスセンター
 北部太平洋海況速報 第52号 9月28日発行

○平成30年漁期のハタハタ漁獲対象資源量の予測結果 (第1報)

本年春季に試験船青鵬丸で行った調査結果をもとに、本県のハタハタ漁獲対象資源量の予測を行いましたのでお知らせします。なお、試験船青鵬丸が実施する予定の漁期前分布調査と、近県の漁獲、資源情報をもとに、11月末に第2報として再度お知らせいたします。

1. 予測方法

青森県沿岸で漁獲されたハタハタ漁獲物を調べ、雌雄別、年齢別の漁獲尾数を推定し、VPA (virtual population analysis) を行い、前進法により青森県における雌雄別、年齢別の漁獲対象資源量を推定しました。

毎年4月～7月に試験船青鵬丸が行う、本県沖合におけるオッタートロール調査から求めた雌雄込みのハタハタ1歳魚分布密度と、VPAで求めた雌雄別1歳魚資源量の回帰式に平成29、30年漁期*の1歳魚分布密度をあてはめ、両漁

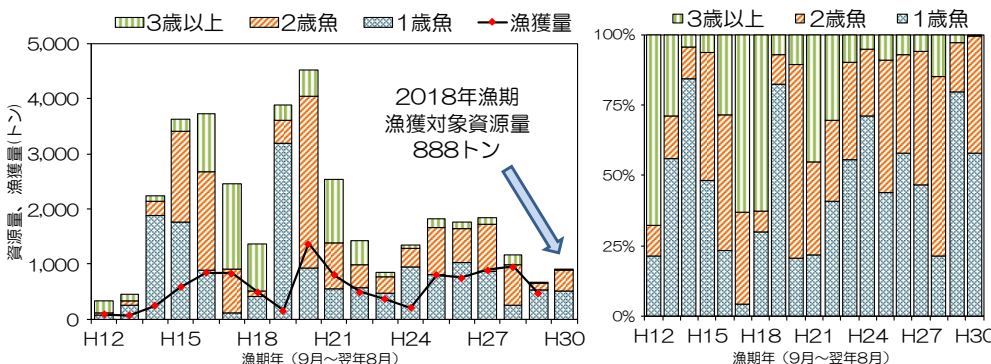


図 (左) 青森県のハタハタ漁獲対象資源量 (棒グラフ) と漁獲量 (折線) の動向
 (右) 青森県のハタハタ漁獲対象資源量に占める年齢別割合 ※H30年は予測結果

期の雌雄別1歳魚漁獲対象資源量を求め、前進法で推定した2歳魚、3歳魚以上の結果と合わせて、平成30年漁期の本県における1歳魚～3歳魚以上の漁獲対象資源量を推定しました。 ※漁期は9月～翌年8月

2. 結果 — 平成30年漁期のハタハタ漁獲対象資源 —

漁獲対象資源量は前年をやや上回り、主体は1、2歳魚。

平成30年漁期に本県で漁獲対象となるハタハタ資源量は前年をやや上回る888トンと推定されました (前年比134%) (図)。年齢別に見ると、1歳魚が513トン、2歳魚が369トンで資源のほとんどを占めています (図)。

当所では漁期前まで継続して調査や情報収集を行い、初漁日予測の結果と合わせて11月に発表予定の第2報でお知らせします。

※対前年比±20%未満: 並み、21%以上40%未満: やや、40%以上60%未満: かなり、60%以上: はなはだ